

恋愛小説の舞台に

直木賞作家の角田光代さん(46)が2日、鹿屋市浜田町のかのやばら園を訪れた。11月22日に発売される小説誌の企画「恋人の聖地」7話のうちの1話を執筆するための取材。「花が出てくるような小説は書いたことがなくチャレンジになる。イメージを膨らませたい」と話した。

直木賞作家 角田光代さんが取材

鹿屋市職員の説明を受けながらかのやばら園を巡る角田光代さん(左)＝鹿屋市の同園

小説は「小説新潮」の特集として、クリスマスに合わせて企画。カッパルが訪れるのにふさわしい観光地として静岡市のNPO法人

が認定する全国の「恋人の聖地」の中から、7人の女性作家がそれぞれ好きな場所を選んで恋愛小説化する。角田さんは鹿屋市職

員の説明を受けながら園内を歩き回り、ロースチャペルを鳴らしたり、鹿屋オリジナルのバラ「プリンセスかのや」の写真を撮ったり

した。取材をもとに、かのやばら園を舞台とした15、16分の小説を書き下ろす。

角田さんは「バラの種類が多き、公園の広さに驚いた。山の景色がきれいで気持ちよくて、満開のときはすごくきれいだろうと思った」と印象を語った。

同園で角田さんと話した嶋田芳博市長は「まさか小説の舞台に選ばれるとは思わなかった。かのやばら園をPRしていただけるのはうれしい」と話した。(上山智子)

